

白子神社だより

令和六年 冬 第十五号

迎春準備 進む

間もなく新しい年を迎えます。神社では多くの初詣の参拝客を迎える準備が最終盤に入っています。来年、令和七年は巳年、白子神社にとっては特別の年です。

ご存知のことと思いますが、今からおよそ千年前、白子の海に白い亀の背中に白い蛇が乗って沖からやってきました。里人が神さまではないかと柄杓の柄を差し出すと上つてきたと言います。この白い蛇を神さまとして祀りました。



中ト書道教室の皆さん（10月20日）

特別な年は、特別なしつらえで迎えたいと考えました。巳年ゆかりの大きなパネルで初詣の皆さんをお迎えします。

十月の例大祭の三日目、ご縁日の日に書道パフォーマンスとして、三メートル×四メートルの大きな紙に「白蛇招福」と大書してもらいました。

もう一枚の紙には柄杓の柄を蛇が上った言い伝えを書いてもらいました。このパフォーマンスをしてくれたのは一宮町で中ト（なかと）書道教室を主宰している白井菜津子先生です。四人の生徒さんが協力してくれました。

「白蛇招福」と「迎春」の字は、大学三年の長谷川花歩（かほ）さん、神社の言い伝えは大学二年の阿久津咲良（さくら）さん、絵を担当してくれたのは高校二年の宮本実侑（みゆう）さんと高校一年の木村優里（ゆうり）さんです。

今年の初詣には、拝殿の正面の右と左にこの大きなパネルを据え付けます。

白井先生を始め四人の生徒の皆さん、ご協力ありがとうございました。

今年の白子神社は、いつもの年とは違った雰囲気の中で一年の平穏と幸せをお祈りいただきます。どうぞお参りにお越しください。

ご本殿令和の大修復奉賛会

活動開始

来年度からご本殿の修復が始まります。二六〇年前に建てられたご本殿は時の流れの中で大分傷んでいます。またいつ起こるかわからない地震に備えて耐震工事が必要です。

今、修復しなければ後世に伝えることができないと判断しました。

修復には多額の費用を必要とします。多くの方々のご奉賛をいただき事業を進めてまいります。

修復工事に備えて神社ではこれまで資金を積み立ててきました。もちろんこれだけでは足りませんので、ご奉賛事業を進める事務局をつくり、また授与所などに受付窓口をつくり、正月の初詣から広く浄財をご寄付いただきます。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

絵馬額が奉納される

この度、多くの皆さんのご協力を得て日本画家の藤島博文さんが描いた「白蛇 白亀 来福之図」の絵馬額が白子神社に奉納されました。

絵馬額は、横二メートル四十センチ、縦一メートルの大きなものです。額の中央に藤島画伯の絵が描かれており、左右には奉納してくださった方々のお名前が彫られています。

この他にも横二メートル一〇センチ、縦一メートルの神社の名前が書かれた大きな額二面も同時に奉納していただきました。

奉納してくださったのは、香取市の江戸文化伝承納札 江戸納額會の岡 正己さんです。

岡さんの呼びかけで多くの方々にご協力いただきました。十一月三日（日）に奉納奉告祭と除幕式が行われました。



藤島博文さん（ふじしま はくぶん）



昭和十六年、徳島県美馬市生まれ。若き日、花鳥画を学び、のちに東京画壇で現代日本画の精神性を学ぶ。日展で二度の特選受賞後、審査員となる。平成十七年、『唐詩選より黄鶴之図』が総理大臣官邸の正面玄関に掲げられる。平成二十年、天皇陛下御即位二十年奉祝委員を委嘱され、奉祝画『平成鳳凰天来之図』を謹筆。国内はもとより中国での講演も多数。自宅の庭で丹頂鶴を飼育している。日展特別会員

神社面白話 着物は暖かい

神職を始め神社の職員は、常に着物を身につけています。白の白衣に袴です。冬になると時々言われます。白と言う色は寒さを連想するのでしょうか。「寒くないですか？」心配していただいて有難いのですが、実は着物はとても暖かいのです。

着物は、わかりやすく言いますと「ダフダフ」です。これがミソなのです。袖口や両足の周りに広い空間があります。そこに暖かい空気が溜まるのです。そのおかげでとても暖かいのです。

神職になる前まったく着物とは縁がありませんでした。正月に明治生まれで縫いものが得意だった母親に作ってもらった着物を着たぐらいでした。その頃、着物は、布地をたくさん使ってもったいない。裾に絡んで歩きにくいと思っていました。これは誤解です。動きにくいことはありませんし、着物ですと立ち居振る舞いが優雅になります。

正月に着物を着て、先人の知恵を見直してみてはいかがですか。